



# 新 牛久ごみ ニュース

## 燃えるごみの分析調査を行いました

昨年度、家庭から排出された燃えるごみを対象に、どのようなごみが排出されているか分析調査を実施しました。その分析結果をお知らせします。

☆分析の結果、40%以上の削減が可能と判明！

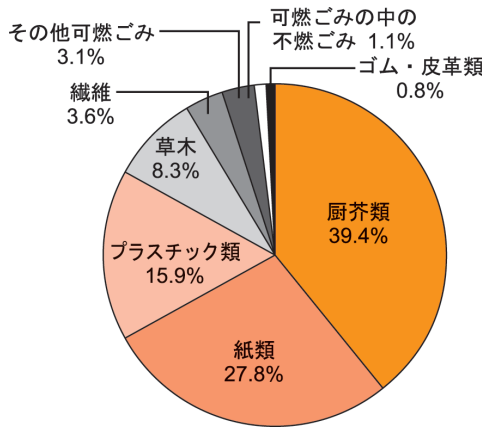
昨年度の燃えるごみ量は、前年度より減少し約1万7300トンとなりましたが、依然として高水準を維持しています。分析調査によると削減が可能です。40%以上も含まれています。さらにごみの減量を推進するため、分析調査を定期的に実施していきます。

☆燃えるごみの6割以上は生ごみと紙類

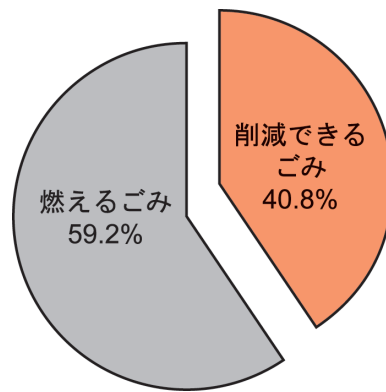
グラフ①は、家庭から排出された燃えるごみを種類ごとに分類したもので、生ごみなどの厨芥類と紙類で67・2%（約1万1600トン）、包装フィルムや容器類のプラスチック類が15・9%（約2700トン）で、ごみの8割以上を占めています。

厨芥類では食べ残しが9割を占

グラフ①燃えるごみ約17,300トン



グラフ②削減できるごみ約7,000トン



め、賞味期限切れや未使用の食品も含まれています。また、紙類は、分別すれば資源となる新聞紙や雑誌などが5割以上含まれています。そのほか、空き缶やペットボトル、古布などの資源物も多く混入しています。

☆分別することで16%以上削減できます

グラフ②は、分析調査を基にどのくらいのごみを減らすことができるかを示しています。皆さんのご家庭ではごみの分別をきちんとしていますか？ご家庭のごみ箱をちよつとのぞいて見てください！新聞、チラシ、メモ用紙、菓子箱、ペットボトルなど資源物が入っていませんか？皆さんが分別を徹底するだけで、16%（約2760トン）のごみを削減し、資源として有効に活用することができます。生ごみは、買い過ぎに注意したり調理を工夫したりすることで、22%（約3800トン）を削減す

ることが可能です。

市全体で取り組むことで、燃えるごみは約7000トン（約41%）も削減することができ、その結果、二酸化炭素排出量削減による地球温暖化防止やごみ処理経費の削減などを図ることが出来ます。子どもたちの未来に過大な負担を強いることがないように、今すぐ実行することが大切です。

今回は組成分析の結果をさらに詳しくお知らせします。

### お知らせ

- ・木くず類は資源物の日に出してください。4月から木くず類は資源物の日に回収いたします。7月から燃えるごみの日に出了された木くず類は回収しませんので、ご注意ください。
- ・事業所のごみは集積所に出せません。お店などの事業所から発生したごみは自らの責任で、処理することが義務付けられています。専門業者に直接依頼するなどして適正な処理をお願いします。詳しくはお問い合わせください。